

	現状	課題	アイデア(フォーラム委員の所感含む)
<p>市政参加の経験がある若者(ヒアリング)</p>	<p>(市政参加のきっかけ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設のチラシ配架であったり、市政に近い場所にいる身近な大人からの誘いであったりする。 <p>(市政参加して感じた手応え、良かったと思う点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 会議で様々な年代・職業の方が集まって、一つの社会課題について議論することで、自分自身、新たな価値観に気づけた。 行政の仕組みについて知らなかったことを知ることで勉強になっている。 自分の発言が会議の議事録に載ることで、市政に何らかの反映がなされると感じる。 <p>(若者の実情)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市政への関心は高くなく、市政参加できることを知らない人が多い。 コミュニティが多様化しており、自分の興味に沿った団体や活動に参加して充実感を得ている。 	<p>(市政参加のきっかけ)</p> <ul style="list-style-type: none"> 若者が自ら市政参加の機会を見つけるのは難しい。 若者が「公募委員」になるには心理的なハードルもある。どのような服装で会議に臨むのか、といった若者目線での理解も必要。 <p>(市政参加して感じた課題点)</p> <ul style="list-style-type: none"> 会議は公開されているものの傍聴に来る方がいない。 会議日時の設定に課題があるのではないかと。 会議の限られた時間で、審議が十分に行えているか。 <p>(若者の実情)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市政は、自分が参画するものだと思っていない。 自分の興味のある活動で忙しんでいるので、市政に目を向ける余裕はない。 若者に対し「市政に参加し、何をしてもらいたいのか」をしっかり伝えられていない。 	<p>(PRの方法を工夫する)</p> <ul style="list-style-type: none"> 対象が多様な場合、チラシやポスターでの周知に加えて口コミを狙った広報など、様々な周知方法を組み合わせることが必要。 大学生や高校生などには学校を通しての広報が効果的(ポータルサイトへの情報掲載、ボランティアセンターとの連携など)。 公募委員募集の際には、目を引くチラシの作成や、会議自体も分かりやすい資料を作成するなど工夫が必要。 市政に近い場所にいる気の利いた大人からの声掛けが、参加のきっかけになり得る。 <p>(参加することのメリットを見せる)</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間を割いて参加することから、報酬には魅力を感じる。 若者に「市政に参加し、何をしてもらいたいのか」を具体的に伝える努力をしないとけない。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> 働く人も、傍聴・参加しやすい会議日時の設定など工夫が必要。 若者に対し、任せると決めたことについては全て任せるなど、大人側にも一定の器量が求められる。
<p>若者支援関係者(ヒアリング)</p>	<p>(施設の利用やプログラム等への参加のきっかけ)</p> <p><グローバルセンター></p> <ul style="list-style-type: none"> 「何かしたい」という思いをもった学生が偶然知った場合や、利用者から紹介を受けて参加する場合などがある。 <p><ユースサービス協会></p> <ul style="list-style-type: none"> 友人や親に勧められた、ホームページで自習室を探していて見つけた、サークル活動の場として知ったなど、様々である。 <p>(若者との関わり方、若者のモチベーション)</p> <p><グローバルセンター></p> <ul style="list-style-type: none"> 職員が若者一人一人と向き合うことの大切さを認識して学生と関わっている。 若者に役割を任せること、若者が悩んでいる時にしっかりと話を聴くことが大事。 モチベーションは、人と「つながりたい」という感覚。 <p><ユースサービス協会></p> <ul style="list-style-type: none"> 日常の中で若者との関係性を構築していくことが重要。 若者が達成感や承認、手応えを感じながら物事を進めていくことが、次の活動につながる。 	<p>(若者の実情)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市政に全く関心がないわけではなく、市政に関する話題を、安心して話せる場がないと若者は感じている。 若者の市政参加を進めるための枠組みを、若者と一緒に考えることが大事。 その枠組みを考える場に、若者を集める努力が必要。 	<p>(関係づくりが大事)</p> <ul style="list-style-type: none"> 若者は「人」に影響を受けて行動を起こすことがある。信頼できる先輩が勧めることならやってみようと思えるような「関係づくり」は有効ではないかと。 ひとくりに「若者」として扱うのではなく、「個」それぞれと向き合うプロセスが大切。 大人から若者への一方通行ではなく、若者と共に創り上げることが重要。 <p>(場の持ち方を検討する)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「市政参加」と意識していなくても、気づけば参加しているという形もあり得る(ex.餅つき大会と言って防災訓練など) まずは何かしら活動に参加してもらうことが大切で、その活動を通じて、企業や地域、行政のことを感じてもらい、その延長線上に市政参加がある形がよい。 ポップでおしゃれなしつらえなら参加する人もいるかもしれない。 市政参加に至るまでの道筋や、考える入口を丁寧に示していく必要がある。そうした道筋をつくることのできるプログラムがあればよいのではないかと。
<p>市政参加の経験がない若者(ヒアリング、ワークショップ)</p>	<p>(市政参加への意識)</p> <ul style="list-style-type: none"> 普段生活していて市政を特別に意識することはない。 小さな不満は友人同士で話して終わってしまうし、市に伝えて何とかしてもらおうとは思わない。 住民票を置いていないので、意見を言ってもよいか分からない。 仕事で忙しく、時間がない。 お金がないので、興味がわかないところに出向く余裕がない。 <p>(ワークショップに参加して)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市政参加の仕組みが分かった。 市政参加が身近に感じられるようになった。 市政参加制度について全然知らなかったが、今回参加してみても興味をもった。 青少年モニター制度に登録してみようと思った。 他の若者と知り合える機会となつて、参加してよかった。 	<p>(参加することのメリットを見せる)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市政参加することによって若者が得られるメリットがはっきり分かる、見せ方が大事。例えば、報酬が得られるということは魅力的であるし、お金に限らず、他大学の人や社会人など、普段関わりのない人とのつながりが得られるということもメリットである。 <p>(PRの方法を工夫する)</p> <ul style="list-style-type: none"> 周知方法として、SNSの利用がカギになると思われるが、「行政」という固いイメージとのギャップが生まれるような軽い雰囲気のものが良い(情報量は極力少なく、写真や絵文字で目を引くもの)。 <p>(若者が集まる場での説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 実際に若者がいる場に出向いて説明することで興味を持ってもらえるということが分かった。 	